

平成 31 年度（令和元年度）・令和 2 年度

認定こども園大谷オアシス保育園 学校評価

本園は、札幌市の認可保育園として平成 21 年 4 月に開所致しました。平成 31 年度より幼保連携型認定こども園へと移行し、本園がこれまで実施しておりました保護者満足度調査、及び、教員自己評価から、『学校評価委員会』を立ち上げ、学校評価委員の皆様と本園の職員も加わり、独自の評価項目を設け、本園の保育・教育について振り返り、質の向上に努めております。

認定こども園となり、学校評価が初年度となる今回は、同一建物内にあります札幌大谷第二幼稚園（姉妹園）と同じ評価項目で平成 31 年度の学校評価に取り組みました。

平成 31 年度（令和元年度）内は、新型コロナウイルス感染症の影響から、第一回学校評価委員会、保護者意識調査、教職員自己評価を済ませ、集計表を作成したところで令和元年 3 月に予定しておりました第二回学校評価委員会が中止となり、令和 2 年度に調査結果の報告と振り返りをし、園評価と、委員の皆様方による評価の取りまとめを行なうことと致しました。

意識調査、及び自己評価の実施から、皆様へ報告するに至るまで時間がかかりましたことをこの場をお借りしてお詫び致しますと共に、ご多忙中のところご協力頂きました委員の皆様をはじめ、保護者の皆様方にこころより感謝申し上げます。

テーマ 『楽しく食べる体験を深め、すべてのいのちを大切にする力を養う』

1、テーマの趣旨

保育・教育の基礎となる部分が同じこと本園の学校評価委員の先生方と札幌大谷第二幼稚園（姉妹園）の学校評価委員の先生方が同じということもあり、初年度となる今回は、札幌大谷第二幼稚園（姉妹園）と合同で学校評価に取り組みたいと職員間で話し合いを重ねてきました。

札幌大谷第二幼稚園（姉妹園）が、平成 30 年度に『子どもたちに食の楽しさと大切さを伝える～園生活を通しての食育』をテーマに学校評価を行ない、その中でテーマを単年度毎に評価テーマを変えるのではなく、複数年に渡って考察しても良いのではないかという意見が出ていたことから、今年度も同様のテーマで学校評価を行なうことに致しました。

2、平成 31 年度（令和元年度）・令和 2 年度の学校評価の実施手順等について

今回実施する学校評価の実施手順等は次のとおりです。

①重点目標の設定、評価項目の設定、教職員への説明・周知	R1年10月
②学校評価委員会の開催	R1年12月
	R2年3月 中止
	R3年1月 延期
	R3年3月
③教員自己評価の実施	R1年1月
④保護者アンケートの実施	R1年1月
⑤園自己評価の実施	R1年3月
⑥学校評価委員会報告	R1年5月 延期
	R3年5月

尚、この自己点検結果は、学校評価委員会報告と共に、学園理事長に報告され、その後、概要を公表する予定です。

3、平成31年度（令和元年度）・令和2年度の学校評価の重点目標と評価項目

○重点目標

『楽しく食べる体験を深め、すべてのいのちを大切にする力を養う』

○評価項目

- I 食と健康
- II 食と文化
- III 食と人間関係
- IV いのちの育ちと食
- V 料理と食
- VI その他

4、点検結果—現状・課題・改善方向

- A 食と健康
- B 食と文化
- C 食と人間関係

評価項目A～Cまでについては、『出来ていた』『まあまあ出来ていた』との評価が8～9割を占めていた。食事の際の基本的な習慣や態度といったマナーについては、保育教諭が意識して関わっていること、子どもたちも身に付いていると実感していることが伺えた。また、身近な人と食事をする楽しさについても配慮しているという結果だった。この項目の中で『あまり出来ていない』『出来ていない』との評価が1割以上となったのが、食行事を通じて伝統文化、郷土文化を伝えることが出来ているかについてだった。昨今、家庭に於いて、行事食への意識が低くなってきていることを鑑みると、日本の伝統文化や郷土文化へ興味・関心

を持ってもらう為のきっかけとして、給食や手作りおやつ、子どもたちとのクッキングの機会を活用することで、園が発信元となり子どもたちから各家庭へと繋げていきたいと思う。今後の目標が明確になったことも踏まえて、Bと評価した。

D いのちの育ちと食

E 料理と食

自然との関わり（栽培・飼育・食育）を通して、感謝の気持ちを持って食事を味わうことが出来ているか、保育活動の中で年間を通して関連した食育活動を行うことが出来たか、という問いに対して『あまり出来ていない』『出来ていない』と回答が2割となり、雇用形態によって保育・教育活動案を立案する立場にない職員は、自分たちは関わっていないと自己評価が低いことが影響していると考えられる。

しかし、一方で8割の職員が、保育・教育活動として“食育活動”を『出来た』『まあまあ出来た』と評価していることから、本園が大切にしてきた食を通しての学びを職員が意識したカリキュラムを作成していることが分かった。また、そのことを保護者へ対して発信することが出来たと8割が自己評価していたが、保護者も8割が園での活動を知っていると回答してくれていたこと。子どもたちが本園の食事の時間を楽しみにしていると9割が回答してくれていたこと。そして、6割の保護者が本園の食育活動で食べたことがあるものを自宅で作ったことがあると回答していたことから、Aと評価した。

F その他

園にとって必要だと思う、大切にしていきたい「食育」の活動として、実に9割の職員がなかよし畑、また、その畑で収穫した食物を活用した活動を回答していた。また、自宅に於いて得意料理や好んで作る料理があると全員が回答していることから、日頃から料理に関心を持ち、そのことが保育・教育に活かされていることが分かった。このような現状からAと評価した。今後も、職員一人一人が、互いに意識をもって研鑽を積んでいって欲しいと願っている。

5、最後に

平成31年度（令和元年度）に保護者意識調査、教職員自己評価・意識調査を実施してから、新型コロナウイルス感染症の影響で延期となっていた『学校評価委員会』を令和2年度に実施することが出来、意見の取りまとめをすることが出来ました。

本園としては、認定こども園へ移行し、初めて委員会を立ち上げての学校評価だったこともあり、姉妹園である札幌大谷第二幼稚園と合同で事前の話し合いを重ねてきました。そして、学校評価テーマを『楽しく食べる体験を深め、すべてのいのちを大切にする力を養う（食育）』といった、本園がこれまで取り組んできた保育に関係の深

い食育についての内容としました。

本園では開園当初から、『食べること』が子どもたちの健やかなこころの育ちを育む上で、重要なことだと位置づけ、自分たちで作物を育てることが大切であると考え、設計事務所に依頼し『なかよし畑』をデザインし、子どもたちの目線で植物の根元が見える畑を作り、様々な野菜の種や苗を植えて育ててきました。このことについては、前園長 辻村静子先生のご尽力によるものが大きいと思います。そして、私を含め、当時から在職していた職員をしっかりと巻き込んで、畑の作業や農作物の手入れについて丁寧に教えて下さっていたことが土壌となり、今の職員一人一人が、本園にとって『なかよし畑』の存在が大切だと認識してくれているのだと、改めて感じております。

人間が生きて行く上で、食べることは大切なことです。食べることへの感謝の気持ちを忘れず、楽しみながら季節折々の食材に親しみ、子どもたちはもちろん、保護者の皆さんにも興味・関心を持ってもらえるよう、これからも努めていきたいと思っております。

今後とも皆様方より一層のご支援・ご協力を心からお願い申し上げます。

最後になりましたが、大変お忙しい中、今回の点検・評価にご協力頂きました保護者の皆様、評価委員の皆様方に対しまして、心より感謝申し上げます。

令和3年3月

認定こども園大谷オアシス保育園
園長 中里 泰子